

展示作品

作家名	作品タイトル	制作年	高さ	幅	奥行
伊村 俊見	播 24-1	2024	480×	840×	770 mm
	播 23-6	2023	460×	610×	610 mm
	播 24-3	2024	790×	560×	540 mm
	播 24-2	2024	550×	580×	530 mm
	漂 24-4	2024	530×	780×	570 mm
	漂 24-5	2024	310×	600×	430 mm
	膚-パラミタ 24-6	2024	1410×	2000×	40 mm
	播 23-7	2023	230×	460×	440 mm
	漆貫入彩御深井交白釉大壺	2024	480×	490×	470 mm
	唐津漆黒大壺	2024	465×	430×	430 mm
織部漆朱塗大壺	2024	470×	450×	460 mm	
織部漆朱塗大壺	2024	460×	450×	450 mm	
漆貫入彩白磁大壺	2024	450×	450×	450 mm	
漆貫入彩白釉壺	2024	300×	375×	363 mm	
織部漆朱塗壺	2024	427×	400×	327 mm	
漆貫入彩御深井壺	2024	370×	420×	288 mm	
織部漆朱塗中壺	2024	305×	295×	270 mm	
漆貫入彩白釉花器	2024	198×	154×	145 mm	
漆貫入彩白釉水指	2024	201×	212×	203 mm	
漆貫入彩白磁茶入	2024	110×	78×	70 mm	
漆貫入彩青白磁茶盃	2024	108×	146×	110 mm	
漆貫入彩御深井茶盃	2024	103×	122×	108 mm	
氏家 昂大	漆貫入彩白釉茶盃	2024	105×	130×	120 mm
	漆貫入彩白磁茶盃	2024	108×	144×	122 mm
	唐津漆黒交織部茶盃	2024	108×	152×	141 mm
	漆貫入彩鼠志野茶盃	2024	100×	136×	134 mm
	織部漆朱塗ぐい呑	2024	82×	104×	96 mm
	織部漆朱塗片口	2024	113×	183×	115 mm
	漆貫入彩白磁ぐい呑	2024	73×	96×	90 mm
	漆貫入彩白磁德利	2024	184×	117×	105 mm
	漆貫入彩青白磁ぐい呑	2024	77×	89×	80 mm
	漆貫入彩青白磁德利	2024	183×	120×	120 mm
漆貫入彩御深井ぐい呑	2024	75×	85×	75 mm	
漆貫入彩御深井德利	2024	185×	115×	110 mm	
唐津漆黒ぐい呑	2024	74×	88×	83 mm	
唐津漆黒片口	2023	121×	195×	125 mm	
漆貫入彩白磁中壺	2024	336×	253×	249 mm	
岡田 泰	淡青釉皿	2023	105×	535×	535 mm
	淡青釉鉢	2019	290×	460×	460 mm
	淡青釉花器	2024	310×	310×	310 mm
	淡青釉花器	2024	330×	130×	130 mm
	淡青釉花器	2024	340×	130×	130 mm
	淡青釉茶盃	2024	100×	160×	160 mm
	淡青釉茶盃	2024	90×	170×	170 mm
	淡青釉茶盃	2024	100×	130×	130 mm
	淡青釉華香炉	2024	150×	150×	150 mm
	淡青釉鉢	2024	100×	310×	310 mm
淡青釉鉢	2024	150×	350×	350 mm	
淡青釉華ノ器	2022	170×	180×	180 mm	
淡青釉華ノ器	2022	160×	190×	160 mm	
淡青釉華香炉	2024	100×	130×	130 mm	

作家名	作品タイトル	制作年	高さ	幅	奥行
加藤 真美	惑星-Planet-	2023	380×	450×	435 mm
	満ち潮-Tide-	2024	310×	540×	450 mm
	月の底	2024	355×	380×	280 mm
	月光浴	2024	325×	255×	240 mm
	静かの海	2024	340×	445×	365 mm
	宙	2024	95×	110×	95 mm
	宙	2024	115×	110×	290 mm
	衛星-Satellite-	2024	200×	290×	230 mm
	彼岸(きしべ)	2024	280-405×	120-190×	120-190 mm
	満ち欠け	2024	180×	190×	170 mm
馬場 康貴	elemental form X	2019	570×	250×	220 mm
	elemental form X III	2019	450×	250×	250 mm
	soaring form VII	2024	610×	350×	220 mm
	soaring form VIII	2024	650×	360×	370 mm
	structural vessel V	2024	380×	370×	300 mm
	structural vessel VI	2024	330×	220×	220 mm
	structural vessel IV	2023	400×	350×	350 mm
	soaring form I	2021	440×	240×	230 mm
	POPS	2024	240×	10000×	200 mm
	矢部 俊一	Wavelength	2024	1730×	1820×
岳雲		2021	270×	600×	200 mm

*会場での展示内容が異なる場合があります。



公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム
〒510-1245 三重県三重郡菟野町大羽根園松ヶ枝町21-6
Tel.059-391-1088 Fax.059-391-1077
https://www.paramitamuseum.com
E-mail=office@paramitamuseum.com

第18回 パラミタ陶芸大賞展

paramitamuseum
Ceramic Art Grand Prize Exhibition

恒例となったパラミタ陶芸大賞展も、本年18回目を迎え、来館者による投票という大賞選考方法もすっかり定着しました。今回も、全国の美術館、博物館、画廊、美術評論家の方々から、「時代を代表する陶芸家」を推薦いただき、上位6名の作家をノミネートして、パラミタミュージアムの会場に作品を展示します。賞の選考は6月7日から35日間の展示期間中に来館者に投票していただき、その結果により大賞を決定します。多数の皆様のご投票をお待ちしております。

展示期間 **2024.6.7金 ~ 7.29月**

投票期間 **2024.6.7金 ~ 7.11木**

*大賞作家にご投票いただいた方には、パラミタミュージアムより記念品をさしあげます。

パラミタ陶芸大賞発表式 **2024年7月21日(日) 14:00**

パラミタ陶芸大賞1名 賞金100万円

伊村 俊見 (いむら・としみ)



photo: 伊村拓見

〈制作コメント〉

土という素材を扱うなかで、私は粒子の集合体である土が、水の作用によって可塑性が生まれ、指の力や重力など外部のエネルギーによって変化し続け、時には意図と異なる方へ動くことを体感してきました。そのことは私の意識を土の粒子の現象だけでなく、水や空気、火など自然界のあらゆるものに向かわせました。それらは常に変化し続け、不変的な私たちは存在しないと思うようになりました。そのことは私の制作にも変化を与え、かたちをつくるのではなく、かたちが消え去ることを含め変化していく営みを表現しようと考えてようになりました。

陶歴

1961年 大阪市に生まれる
1984年 金沢美術工芸大学彫刻科卒業
1985年 岐阜県立多治見工業高等学校窯業専攻科修了
1994年 第1回信楽陶芸展 大賞(信楽産業展示館/滋賀)
1995年 第4回国際陶磁器展美濃95 陶芸部門 グランプリ
1996年 「現代陶芸の若き旗手たち」(愛知県陶磁資料館)
1999年 「陶芸の現在―土の形態学」(日本橋高島屋/東京、他)
2004年 「非情のオブジェ：現代工芸の11人」(東京国立近代美術館工芸館)
2006年 第4回国際現代陶芸セッションに参加、プエノスアイレス建築デザイン美術館(MARQ)とアルゼンチン国立ミシオネス大学にてプレゼンテーションおよびワークショップを行う
2010年 「光庭 HIKARINIWA2015 伊村俊見・原山健一展」(多治見市美濃焼ミュージアム/岐阜)
2015年 「囊 伊村俊見の陶」(瑞浪市市之瀬廣大記念美術館/岐阜)
2020年 とうしん美濃陶芸作品永年保存事業 令和元年度選定
2022年 個展(ギャラリーなうふ現代/岐阜)(同'04 '07 '10 '13 '16 '19)、個展(スペース大原/岐阜)(同'06 '07 '12 '15 '18)

現在 岐阜県瑞浪市在住

加藤 真美 (かとう・まみ)



〈制作コメント〉

私は子供じみた夢想家です。あえかな月の光や永遠にまどろむ深海に普遍を感じます。全ての彼方、微粒子の静寂。ああ、と溜め息がひとつ洩れるような、そんな景色が見られたらと優しい土に助けてもらいながらこさえています。

陶歴

1963年 東海市(愛知県)に生まれる
1986年 常滑市立陶芸研究所(現とこなめ陶の森陶芸研究所)修了
1987年 第16回長三賞陶芸展 前衛部門新人賞
2013年 第31回長三賞陶芸展 自由部門審査員特別賞(鯉江良二選)
2014年 第21回美濃陶芸庄六賞茶展展 庄六賞
2015年 CERAMICA MULTIPLEX 2016 銀賞(クアアチア)
現在形の陶芸 萩大賞展IV 佳作
2016年 個展「月下・Moon Light-」(新北市鶯歌陶磁博物館/台湾)
個展「月明かり」(東海市立芸術劇場/愛知)
2017年 Earth Pot インスタレーション (Museo Etnográfico de Castilla y León/スペイン)
2018年 「POTs - The Vessels」(National Museum Bangkok/タイ)
第44回美濃陶芸展 大賞
2020年 The VIII International Marratxi Ceramic Biennial 招待出品(スペイン)
2023年 第46回美濃陶芸展 60周年記念賞
現在 愛知県東海市在住

氏家 昂大 (うじいえ・こうだい)



〈制作コメント〉

完璧で整えられた形よりも、不完全な形に惹かれます。人は日々、何か受け入れたい存在を受容しながら、生きているのではないのでしょうか。そのような、逆境から生まれる不安や葛藤という、ある種の異物感を取り込みながらも躍動する生命、エネルギーの可視化を作品に込めています。生きるという鼓動を刻むために。作品が現代を生きる人たちへ、生の応援歌となれば幸いです。

陶歴

1990年 仙台市(宮城県)に生まれる
2015年 東北芸術工科大学大学院芸術文化専攻工芸研究領域修了
2021年 個展(ぎやらりい栗本/新潟)
2022年 個展(The Stratford Gallery/イギリス)
個展(画廊 文錦堂/岐阜)
Design Miami (アメリカ)
Warehouse Art Museum (アメリカ)に作品が収蔵される
個展(銀座一穂堂/東京)(同'19)
2023年 個展(ギャラリー-桃青/京都)
個展(Ippodo Gallery New York/アメリカ)
個展(日本橋高島屋/東京)(同'21)
2024年 個展(B-OWND Gallery/東京)
現在 岐阜県多治見市在住

馬場 康貴 (ばば・やすたか)



〈制作コメント〉

私は磁土という素材から感じる「無機的な力強さ」と「軽やかさ」という素材感を大切に制作している。明暗のコントラストを映し出しやすい磁土は、ピースを一つ一つ階層状に貼り重ねていくことによって徐々に陰を纏っていく。生まれた陰影によって引き出された素材が持つ力強さ、繊細さや軽やかさといった素材感を借りながら、私の想像を超えるような新しい磁器の表現をこれからも模索していきたい。

陶歴

1991年 波佐見町(長崎県)に生まれる
2016年 多治見市陶磁器意匠研究所修了
第3回金沢・世界工芸トリエンナーレ 入選
2017年 多治見市陶磁器意匠研究所セラミックスラボコース修了
第11回国際陶磁器展美濃 銅賞
2018年 第115回有田国際陶磁展 熊本放送賞
2019年 個展「elemental form 馬場康貴の白磁」(西福ギャラリー/東京)
2020年 個展「馬場康貴展」(多治見市陶磁器意匠研究所/岐阜)
2022年 「抽象の彼方へ―好きなかたち展 IV」(ギャラリー-数寄/愛知)
「The Future Eternal 未来への轍 - DESIGNART TOKYO 特別展」(ア・ライトハウス・カナタ/東京)
2023年 「抽象の彼方へ―カナタ移転3周年 特別記念展」(ア・ライトハウス・カナタ/東京)
個展「soaring forms 馬場康貴の白磁」(ア・ライトハウス・カナタ/東京)
The Treasure House Fair (イギリス)、Seattle Art Fair (アメリカ)
TEFAF Maastricht (オランダ)(同'18 '19 '20 '22)
現在 長崎県波佐見町在住

岡田 泰 (おかだ・やすし)



photo: マキタオモリツグ

〈制作コメント〉

萩に生まれ萩で育ち、風土が醸し出す空気を纏い、目の前に広がる日本海の透明感や、ゆったりとどこまでも続く姿をカタチにしていきたいと思います。目を閉じると、萩の海は寄せては返す波の美しさや切なさを感じさせ、常に形を変えながら、いつもそこに存在してくれる温かさを持ち、どこまでも繋がっていきます。そこに流れるゆったりとした時間と清涼感を感じる品のある美しさを常に追い求めて、土と向き合います。

陶歴

1976年 萩市(山口県)に生まれる
2002年 東京造形大学美術学部彫刻科卒業
2005年 京都市工業試験場陶磁器専修科修了
2013年 菊池ビエンナーレ 奨励賞
「日本伝統工芸展60回記念 工芸からKOGEIへ」(東京国立近代美術館工芸館)
2015年 日本陶芸展 優秀作品賞・毎日新聞社賞
2017年 エネルギー美術賞
山口県芸術文化振興奨励賞
2019年 現在形の陶芸 萩大賞展V 優秀賞
2021年 「萩の新潮 萩・岡田窯 岡田泰展」(緑ヶ丘美術館/奈良)
2022年 「未来へつなぐ陶芸―伝統工芸のチカラ」展出品(バナソニック汐留美術館/東京、他巡回)
2023年 日本伝統工芸展 入選(同'09~'22)
伝統文化ボーラ賞 奨励賞
2024年 陶美展 入選(同'13~'21)
現在 山口県萩市在住

矢部 俊一 (やべ・しゅんいち)



〈制作コメント〉

「空間を刻む」という概念に基づいて制作しています。今回は社会性を内包し、鑑賞者が「作品と対話」できる要素を取り入れた体験型作品となります。制作意図やタイトルとの関連性を想像することで、作品との繋がりが築かれ、心に新たな波紋が生じます。

陶歴

1968年 備前市(岡山県)に生まれる
1992年 名古屋芸術大学彫刻科卒業
1993年 帰郷し、祖父 山本陶秀(人間国宝)、父 矢部篤郎の指導を受ける
2013年 グループ展(Marianne Heller Gallery/ドイツ)
2014年 AIFAF (アメリカ)、Collect (イギリス)(同'13)
2015年 彫刻展「88」(FEI ART MUSEUM YOKOHAMA/神奈川)
2016年 「備前×矢部俊一×信楽」(滋賀県立陶芸の森)
2017年 「焼締―土の変容」(アメリカ、他海外巡回)
2018年 Ceramic Art Bizen in Shizutani (旧閑谷学校国宝講堂/岡山)、TEFAF (オランダ)(同'14)
2019年 「The 備前―土と炎から生まれる造形美―」(東京国立近代美術館、他巡回)
2022年 「矢部俊一展―空刻」(兵庫陶芸美術館)
2023年 個展「矢部俊一展 空刻 COMPLEX」(日本橋高島屋/東京)
現在 岡山県備前市在住